

2-9

演題	コ～ロナ時にできるの？
副題	～会えない！出れない！でも楽しみたい！！～

食事
コロナ禍

法人名	社会福祉法人 湘南愛心会
施設名	特別養護老人ホーム 逗子杜の郷

発表者名 (職種)	相澤 知恵子 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者		住所	逗子市沼間 1-23-1
共同発表者		TEL	046-870-6800
共同発表者		FAX	046-870-6805
共同発表者		メールアドレス	morinosato-kaigo@tokushukai.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	2014年5月に逗子市内に開設致しました。JR横須賀線東逗子駅より徒歩7分の緑の杜に囲まれた立地に位置し「地域に必要とされ愛される施設づくり」を目指して、ご入居者様に寄りそう介護を提供する施設運営をしています。
---------------------------	---

研究の目的、PRポイント

職員、ご入居者様と「コロナとどう共存していくのか?!」制限ばかりのマイナス面だけではなく「今できることをやろう!そしてみんな笑顔で過ごそう」をキャッチコピーにしてコロナ禍をつらくもあり…でも楽しみを持って乗り越えた結果を報告する。

取り組んだ課題

新型コロナウイルス対策といった中で突然、生活の変化が必要になってしまった。それに伴い面会・外出できないなどの制限により、楽しみが大幅に減少してしまっただけでなく、介護職員の中で「コロナ前みたく共に楽しみたい」といった思いが強くなった。多職種協議を繰り返し「今できることをやろう!そしてみんな笑顔で過ごそう!」をキャッチコピーとした。そんな思いの中から「家族に逢いたい!」「食事や行事など一緒に楽しみたい!」といった2つのコンセプトでアプローチを開始した。ここでは「食事や行事など共に楽しみたい!」を目的とした内容の結果を報告する。

具体的な取り組み

- ・食事について
どうしたら楽しめるのか??
 - ・決まった料理をセレクトするのではなく、共に調理方法や材料を考え各家庭でどのように作ったのかを思い出しながら料理をする。
 - ・五感を刺激できるようにライブキッチンにて調理を行った。
 - ・みんなが同じものを食べられるように食事形態ごとに調理方法や提供方法を工夫した。
- ・行事について
今までの実施場所や規模では行えなくなり、どうようにしたら行事継続できるのか?
 - ・行事の内容に合わせた計画を改良し実施
例) フロア毎に特定の場所での行事
各フロアに出向く形の出張型の行事
各フロアで同時開催する行事

活動の成果と評価

- ・共に楽しみ笑顔で過ごすことが多くなった。
- ・ご利用者様にとって今までより距離感近くなったことで様々な反応があった。
- ・職員は、自ら実施するといった主体性が生まれそれが自信に繋がり、次はどうやったら楽しんでいただけるのか?を日々の生活の中でも考案することができるようになった。

今後の課題

- ・頻度と費用対効果
- ・人員の確保
- ・開催、実施方法検討